



シラバス参照

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	スタートアップセミナー		
担当教員	山崎 暁彦		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:C
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g1110010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	最新の専門知識及び技術	50 %	
	本質を見極めるための教養と学際性	20 %	
	協働的な問題探究	30 %	
	社会の改善につなげる創造性	0 %	
	市民としての主体的態度	0 %	
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>【テーマ】ゼミ入門、法学入門</p> <p>【概要】本演習では、新入生を対象に、大学で能動的に学習していくために必要な作法・知識を習得していきます。大学生になると、これまでの受講スタイル(講義形式)とは異なり、自ら調べ、報告する、あるいは、他者の報告に関して討論するという主体的な作業が求められる「演習(ゼミ)形式」の授業が始まります。本演習では、講義形式の科目と並行して、とくに、演習形式での学習の手助けとなる、プレゼンテーションとディベートの方法等を実践のかたちで学習していきます。同時に、これから学習していく「法学」の世界を垣間見ていって欲しいと思います。</p>		
単位認定基準	今後、演習形式の授業で必要となる、プレゼンテーション・ディベート等に関わる最低限の技術を習得すること。		
授業計画	<p>毎回、複数名の報告(兼司会)者を決め、レジュメ(およびその他のプレゼンテーションの技術)を用いて、毎回のテーマにつき、報告をしてもらいます。その後、報告の担当でない者も含め全体で、その報告について、討論を行うことで演習を進めていきます。</p> <p>初回は、ガイダンス、顔合わせ後、第2回以降の報告の分担を決めます。</p> <p>第2回以降は、大学の情報講座を受けたり、種々の文献購読を中心に、大学の講義の受講方法、法学や広く社会科学(種々の社会問題など)に関わるテーマについてのプレゼンテーション・ディベートを、段階的に進めていきます。後期には、自由報告のかたちで、報告者(報告班)自らが報告のテーマを探し、そのプレゼンテーション・ディベートの優劣を競う、といったことをしてもらいます。</p> <p>．序</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 新入生ガイダンス</p> <p>．報告 (リテラシーを磨く)</p> <p>-1. 聴く</p> <p>第3回 聴講の基本【講義】</p> <p>第4回 報告①</p> <p>第5回 報告②</p> <p>第6回 報告③</p> <p>-2. 読む</p> <p>第7回 読解の基本【講義】</p> <p>第8回 報告①</p> <p>第9回 報告②</p> <p>第10回 報告③</p> <p>-3. 探す・書く</p> <p>第11回 小論文の基本【講義】</p> <p>第12回 図書館講習</p> <p>第13回 報告①</p> <p>第14回 報告②</p> <p>第15回 報告③</p> <p>※ 本演習では、「主体的な学び」を重視し、履修者自らが題材を選出し、担当教員との話し合いを経て、最終的にテーマを決定し</p>		

	ます。
教材・教科書	適宜、コピーを配布します。
参考図書	なし
参考URL	http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/joho/joho.html
授業以外の学習	自らの報告の準備等を行うこと。
成績評価の方法	試験は行いません。出席状況、報告内容、討論への参加度等を総合的に評価します。
成績評価の基準	<p>(教室外での)実習は、とくに考えていないので、本演習での評価においては、(教室内の)討論のなかで、自分の知識をきちんとアウトプットしようとしているかを重視します。演習形式では、発言する者が一部に偏ったり、徒に自らの主義主張を押しだけになってしまう傾向も、まま見受けられますが、自分の報告を通して意見を明らかにしたり、内在的・外在的な議論の意味を理解して、討論の場を作ろうとするような姿勢にも積極的な評価をします。</p> <p>S 単位認定基準を満たし、かつ、全ての項目で優秀な学修成果をあげた A 単位認定基準を満たし、かつ、多くの項目で優秀な学修成果をあげた B 単位認定基準を満たし、かつ、いくつかの項目で優秀な学修成果をあげた C 単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた F 単位認定基準の学修成果をあげられなかった</p>
オフィスアワー	追って指示します。
授業改善・工夫	平易な説明に努めます。
留意点・注意事項	なし
教員の実務経験の有無	

